

神奈川県 県立高校「UD校内案内板作成」授業の企画・運営

平成24年度 高校生バリアフリー教育モデル事業委託

2012年度
神奈川県 保健福祉部 地域保健福祉課

業務概要

目的

県立高校の生徒が、障害当事者とともユニバーサルデザインに配慮した製品のデザイン及び制作を行なうことを通じて、ユニバーサルデザインを実践的に学ぶ。

概要

今回の授業では県立高校において「ユニバーサルデザインに配慮した校内案内板」の制作をテーマに取り上げ、総合デザイン系の生徒26名が盤面のデザインを、建築系の生徒5名が筐体制作を、ユニバーサルデザインに配慮して取組んだ。

総合デザイン系の生徒のプログラム

①ユニバーサルデザインの考え方を学ぶ【第1回授業】

ユニバーサルデザインのサイン等の専門家を招いて、講義頂き、UD案内板の事例検討を行った。

②視覚に障害のある当事者と共に案内板を見学・評価し、ニーズを実感する【第2回授業】

視覚に障害のあるロービジョンの当事者5名に来て頂き、生徒たちと一緒に最寄駅の構内案内板等の見え方や配慮事項の確認を行った。

③ユニバーサルデザインの方針をまとめる【第3～4回授業】

クラスを5班(1班5～6名)に編成し、各班のメンバーが協力してユニバーサルデザインの配慮事項を検討し、案内板のデザインの方針を“班の案”としてまとめた。

④デザインソフト“イラストレーター”を使用し、デザインし成果品を作成する【第4～5回授業】

“班の案”をイラストレーターによりユニバーサルデザインの視点から様々にシミュレーションして、班のメンバーの共同作業により検討を重ね、品質をブラッシュアップした。

⑤視覚に障害のあるロービジョンの当事者からの評価を受ける【合評会】

ニーズを持っているユーザーの評価を受けることで、ユニバーサルデザインの品質の確認を行った。

UD案内板のポイント

- ・盤面は濃い色を採用し、スクールカラーの濃緑にした。
- ・建物の色はコントラストを考えながら色々と試して紫にした。色の確認はプリンターで白黒印刷をしながら、コントラストがあるのか確認して進めた。
- ・校舎名や数字のフォントの大きさは、2回目の授業で最寄駅の案内板を見た時に見やすいと指摘された4cm角とし、フォントはゴシック系を使用した。

建築系の生徒のプログラム

⑥案内板の筐体を制作する【第6～7回授業】

⑦ユニバーサルデザインの視点から現場で確認する【第7回授業】

車いす使用者に配慮して、案内板の設置高さを現場で確認した。

⑧筐体を設置し、確認する【第8回授業】

車いすに座って、盤面の濃緑や、盤面カバーのハレーションが問題になるか確認した。

